

加賀野菜

加賀つるまめ

栽培マニュアル



加賀野菜「加賀つるまめ」栽培マニュアル
発行 平成31年3月
発行元 金沢市
監修 村島 嘉孝(農の匠)
編集 金沢市農業センター
金沢市下安原町東1477
電話 (076)249-2744
FAX (076)249-4470



【加賀つるまめ】

科名 マメ科

原産地 東南アジア・インド

産地 富樫地区

特徴等

特性等



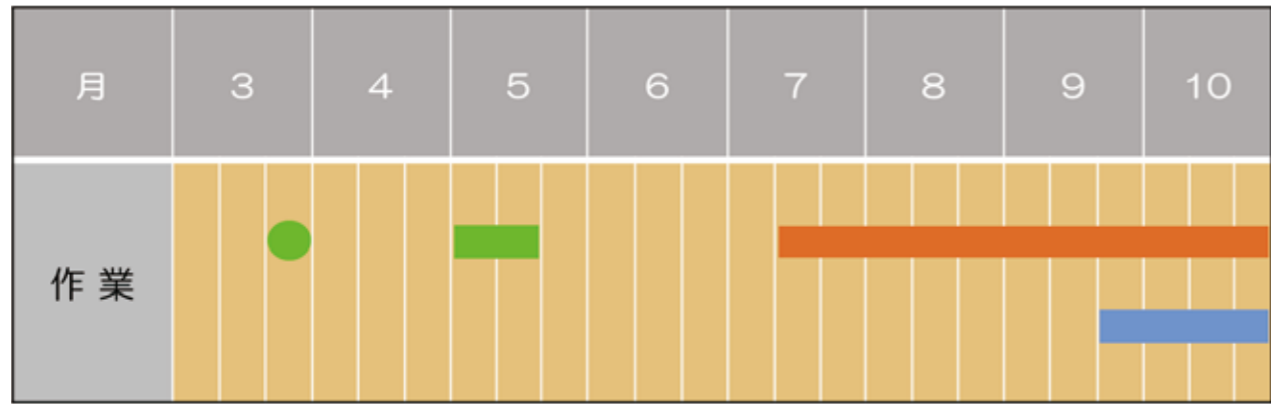
正式な和名は「フジマメ」で、石川県では「つるまめ」と呼ばれている。金沢では「だら」ほど採れるという意味から、「だらまめ」とも呼ばれている。フジマメには、白花品種と赤花品種があり、金沢市で栽培されている加賀つるまめは白花品種である。加賀つるまめは、「インゲン」と同じく未成熟の莢を食べる。

耐乾性があり、高温に強いが、低温には極めて弱い。生育適温は23℃～28℃と高く、13℃以下では生育が劣る。酸性に弱く、pH6.0～6.8が適す。他のマメ類と同様に連作を嫌う。



栽培カレンダー

● : 播種 ■ : 定植 ■ : 収穫 ■ : 採種



1 播種・育苗

- 【播種時期】
- ・育苗には、40日前後を要する。
 - ・定植予定日から遡り、播種日を決定する。

- 【播種】
- ・3.5寸鉢に播種を行う。
 - ・用土を詰め、十分に水分を含ませ、1鉢に2〜3粒播種する。
 - ・約1週間で発芽する。

【播種後の管理】

- ・温度管理は、最高28度、最低15度を目標に行う。
- ・灌水は午前中に行う。
- ・葉が重なり始めたら鉢を上げる。
- ・定植予定日の10日前を目安に徐々に外気温に慣れさせる。(順化)
- ・3粒播種した場合は、本葉2枚頃に間引きし、2本/鉢にする。



育苗のポイント

1か月ほど育苗すると、鉢底から根が出ます。根を切らないために、育苗床に有孔マルチを敷きましょう。



2 定植

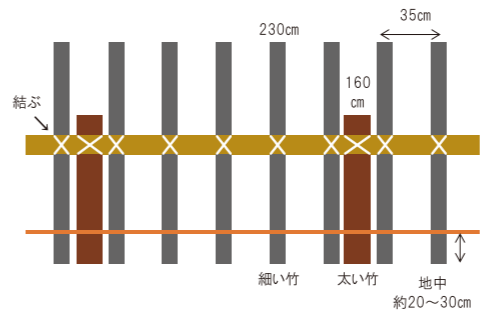
- 【定植までの準備】
- ・定植7〜10日前までに基肥を全面施用し、耕起、畝立て後、支柱を設置する。
 - ・畝幅は1m60cm〜1m80cmとする。
 - ・雑草防止のため、黒色マルチ(有孔)を使用する。

【支柱設置】

- ・畝の中央に細い竹を35cmの間隔で設置する。
- ・細い竹の5本おきに太い竹(半割)を設置し、水平方向にはわせた竹とそれぞれ結び、補強する。



定植前に支柱を設置



【支柱のイメージ図】

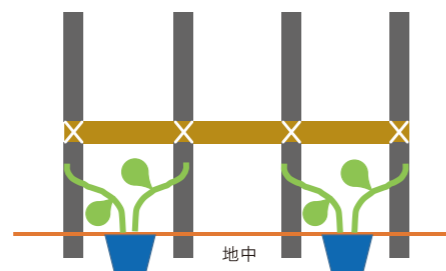
【施肥設計(例)】

肥料名	基肥	追肥	成分量
苦土石灰	100		N 26.4 P 25.6 K 26.4
粒状固形30号	80		
サンフルーツ化成S989	80		
有機特A801号	20	30×4回	

3 管理



短い支柱の間に植えつける



【定植のイメージ図】

- 【定植】
- ・本葉が4〜5枚展開した頃に定植する。
 - ・定植前日に、苗に十分灌水しておく。
 - ・温暖な日に、深植えにならないように植えつける。
 - ・定植後は、十分に灌水する。

【整枝】

- ・下位節(3節程度まで)の側枝は除去する。
- ・1次側枝(子づる)及び2次側枝(孫づる)は混み合わないよう2節で摘芯する。
- ・主枝は、自分の手の届く高さで摘芯する。



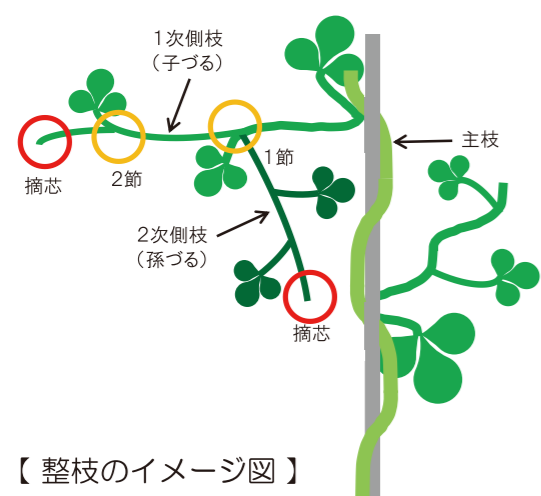
下位節の側枝は除去し、風通しを良くする



主枝は、手の届く高さで摘芯する



側枝は、2節で摘芯する



【整枝のイメージ図】

- 【追肥】
- ・収穫開始後は、3週間に1回の割合で追肥する。
- 【灌水】
- ・土壌が乾いたら、夕方に灌水する。
- 【摘葉】
- ・色が抜け黄緑色になった葉は、除去する。

追肥のポイント

【追肥は通路にしよう】
本来は、マルチの裾をめくり追肥しますが、労力がとてもかかるため、通路に追肥することで、手間が省けます。

4 収穫・調整・出荷

- ・収穫は早朝に行い、収穫と同時に整枝作業も行う。
- ・加賀つるまめは、未成熟の莢を食べるため、中の豆が膨らみすぎていないものを収穫する。
- ・収穫後は、速やかに日の当たらない屋内へ運び、調整作業を行う。
- ・虫害のあるものや、形の悪いものを取り除きながら、箱詰めを行う。
- ・箱詰め後は、日陰で保管する。
- ・1箱あたりの重量は2kgとする。1箱が2kgに満たない場合は、1kgまたは1.5kgとする。(いずれも余目を10%入れること)



収穫のポイント①

対面で収穫することで、採り残しが少なくなります。



等級別に箱を用意し、選別を行う



完成品



蒸散を防ぐため、新聞紙で覆い出荷する

5 採種

- ・9月上旬頃から、形がよく、種が5粒以上入っている鞘を選び目印をつける。
- ・9月下旬頃から、白くなり、完熟した鞘から随時収穫する。
- ・収穫後は、種を取り出さず、鞘のまま自然乾燥させる。
- ・翌年の2月下旬頃に、鞘から種を取り出し、傷のあるもの、形の悪いものを選別する。
- ・封筒等に入れ、冷蔵庫で保存する。



5粒以上入った鞘を選ぶ



自然乾燥させる



種を選別する

収穫のポイント②

出荷できるものと、虫食い等で出荷できないものを選別しながら収穫しましょう。

出荷できないものを入れる籠



出荷できるものを入れる籠

6 病害虫防除

【防除】

- ・日頃の管理、収穫と併せて生育状態や病害虫の発生状況を観察し、病害虫の早期発見と初期防除に努める。
- ・病害虫は、年によって程度に差はあるが、繰り返し発生するので、発生時期や防除実績を日誌等に記録し、翌年以降の防除に活かす。
- ・農薬は「野菜類」や「豆類（未成熟）」「未成熟（ふじまめ）」の登録があるものを使用する。
- ・農薬の使用にあたっては、最新情報入手するとともに、ラベルの記載内容を必ず確認して使用する。
- ・農薬の最新情報は、農林水産省「農薬コーナー」を参照。
URL: <http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/>

防除のポイント

- ・一旦収穫が始まると、残効の長い農薬は使用できなくなります。残効の長い農薬は、収穫が始まる前に使用しましょう。
- ・「加賀つるまめ」は登録農薬が少ないので、計画的に使用しましょう。

【主な病害虫】

病害虫名	主な症状等
輪紋病	<ul style="list-style-type: none"> ・葉に発生する ・はじめ暗緑色の小斑点を生じ、次第に拡大して、円形～楕円形の同心輪紋の病斑となる 
アザミウマ	<ul style="list-style-type: none"> ・主に莢が吸汁され、小さな穴があく 
コナガ等	<ul style="list-style-type: none"> ・葉を食害する ・幼虫は、莢に潜り込み子実を食害する  
ハダニ類	<ul style="list-style-type: none"> ・葉の裏側に集まり寄生する ・多発すると蜘蛛の巣状の網をかけ、葉色が悪くなる
アブラムシ	<ul style="list-style-type: none"> ・葉の裏側に多数寄生する ・多発すると葉が萎縮する  